

六角橋教会

月報

6 2021

牧師 加山 真路
牧師 佐藤 栄一

〒221-0802 横浜市神奈川区六角橋1の26の8

TEL 045 (432) 0694 FAX 045 (432) 0194

(6月の標語)

「仕合わせの群れ」(コリント一 12の26)

教会とは、イエス様の「仕える」生き方にあこがれ、「互いに仕え合おう」と志した人たちの集いです。ただ、実際となると、難しいこともいろいろ。そんな「産みの苦しみ」を赤裸々につづるのがパウロ。個人的な悩み苦しみから、人間関係のもつれや組織のきしみまで、私たちにもおなじみの問題が、彼の手紙には所狭しと並んでいます。

その一つ一つに、パウロは答えます―イエス様の「仕える愛」に、いま一度立ち帰ろう、と。教会は、この愛が血潮のように流れる、生身の体のようなもの。すべての部分はつながっており、一つの部分が傷ついても、イエス様の愛が他の部分に働きかけ、癒してくれる、と。

そうやって《共に苦しみ、共に喜ぶ》群れであり続けたい。良いことも悪いことも、少しずつ持ち寄り、少しずつ分かち合える。そんな生ける「キリストの体」でありたい―いつの世にあってもそう願う続ける「仕え合う」群れは、困難な時にこそ、「仕合わせ」の群れになれると、聖書は力強く約束するのです。

10	第1週	
6日	聖日礼拝前11.00 (説教) 加山真路牧師 (奏楽) 高殿成子姉 *献財日 *隠退教師を支える献金の日	日曜学校 前 9.00 総会資料説明会(オンライン)後 0.30 6月定期役員会 説明会后
7月		
8火		
9水	祈祷会(佐藤牧師) 前11.00	
10木		
11金		
12土		

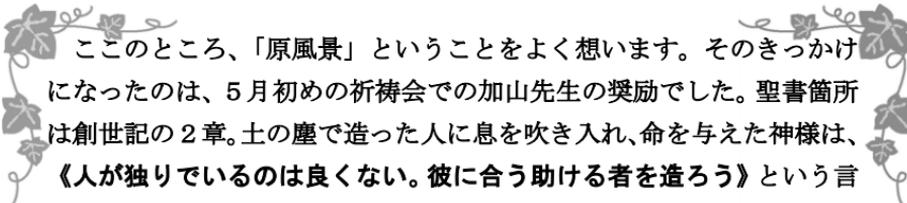
11	第 2 週	
13日	聖日礼拝(花の日) 前11.00 (説教) 佐藤栄一牧師 (奏楽) 秋葉けい子姉	日曜学校 前 9.00
14月		問 安 の 週 (1)
15火		
16水	祈祷会(佐藤牧師) 後7.00	
17木		
18金		
19土		

12	第 3 週	
20日	聖日礼拝 前11.00 (説教) 加山真路牧師 (奏楽) 町田佐和子姉	日曜学校 前 9.00 墓前礼拝 於. 鎌倉霊園 (説教) 佐藤栄一牧師 ※教会を代表し教職・役員ほか 有志が集会所で礼拝後に墓参。
21月～22火		
23水	祈祷会(細川美美江先生) 前11.00	
24木		
25金		教区総会(147) 於. 清水ヶ丘 6/25 正午～後4:30 6/26 前10:00～正午
26土		

13	第 4 週	
27日	聖日礼拝 前11.00 (説教) 佐藤栄一牧師 (奏楽) 佐藤三四子姉	日曜学校 前9.00 7月定例教師会 後1.00
28月～29火		
30水	祈祷会(黙想と祈り) 後7.00	
7/1木		
2金		
3土		

14	第 1 週	
4日	聖日礼拝 前11.00 (説教) 佐藤栄一 牧師 (奏楽) 鈴木まり子 姉 *献財日(夏期特別献金開始) *隠退教師を支える献金の日	日曜学校 前 9.00 7月定例役員会 礼拝後 ※ <u>新年度組織会を兼ねて</u>
5月		
6火		教区常置委員会 於 蒔田 後6.00
7水	祈祷会(佐藤牧師) 前11.00	
8木		
9金		
10土		
15	第 2 週	
11日	聖日礼拝 前11.00 (説教) 佐藤栄一 牧師 (奏楽) 大東敬子 姉	日曜学校 前 9.00

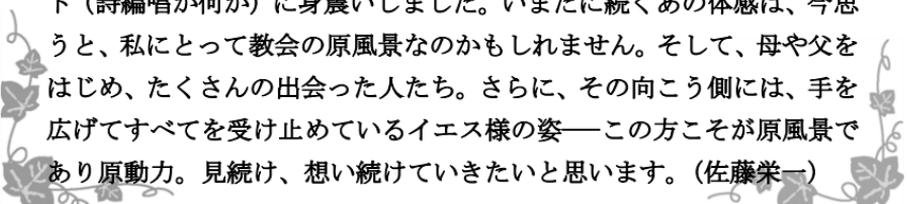
新型コロナウイルス感染症に対して、6月20日(日)まで、東京都には「緊急事態宣言」が、隣接する各県には「まん延防止等重点措置」が引き続き適用されています。そうしたなかでの一応の予定ですが、大きな変更が余儀なくされる事態となれば、連絡網・印刷物・HPで直ちにお知らせします。



このところ、「原風景」ということをよく想います。そのきっかけになったのは、5月初めの祈祷会での加山先生の奨励でした。聖書箇所は創世記の2章。土の塵で造った人に息を吹き入れ、命を与えた神様は、《人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう》という言葉と共に、人のあばら骨で女を造り上げました。互いに助け合って生きる者として、男と女を造られた、あの場面です。

私たちは2月からずっと「仕えること」「仕え合うこと」を標語から学んでいました。今までに何度となく耳にしてきた創世記の物語は、「互いに仕え合いなさい」と語り、仕えるために命までささげたイエス様の「仕え合う愛」の原風景として迫り、私の心に深く宿りました。その風景には、助け合い、仕え合うために、命の息を吹き込んで人間を創造された神様の《熱情》があふれています。そして、この「仕え合う原風景」は、静止画像ではなく、動きのあるダイナミックな絵として、日々の原動力になっています。

この祈祷会以来、いろいろなことの原風景を想うようになりました。使徒言行録は、ペンテコステに聖霊が降ったこと、その後の新しい教会（初代教会）の活動を描いていますが、そこには「仕え合う群れ」の原風景があるように思います。また、説教でも語られましたが、徴税人ザアカイが《主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します》と言った場面は、イエス様と出会って、新しくされていく人の原風景ではないかと思わされます。



この原風景探しは、じつは私自身にも。初めて教会へ行った44年前の聖霊降臨日礼拝、説教は何も覚えていませんが、歌われた英国のチャント（詩編唱か何か）に身震いしました。いまだに続くあの体感、今思うと、私にとって教会の原風景なのかもしれません。そして、母や父をはじめ、たくさんの出会った人たち。さらに、その向こう側には、手を広げてすべてを受け止めているイエス様の姿——この方こそが原風景であり原動力。見続け、想い続けていきたいと思っています。（佐藤栄一）